

伊勢市教育研究所

<第14号>

たより



<http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo>
E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

平成30年3月30日
伊勢市教育研究所
伊勢市桜木町55-1(旧さくらぎ保育所)

<教職員研修講座報告>

授業づくり(外国語活動)「小学校英語の早期化・教科化

～変わらないこと、変わらなければならないこと～

12月25日(月)に、加藤^{ひろゆき}拓由さん(春日井市立鷹来小学校教諭)をお招きし、模擬授業形式でご講演いただきました。文科省からの最新情報を交えながら、明日からの授業で使えるゲームやアクティビティをたくさん紹介していただきました。参加者も思わず夢中になる楽しい時間でした。

<加藤先生のお話より>

- 中学年の外国語活動で大切なのは、
①活動の目的を明確にする ②身体・あたま・こころを使う
③ふれあいの場面をつくる ④振り返りとシェアリングをする ことである。
歌やチャンツを繰り返すことや、クイズやゲームを使ったコミュニケーション活動をとおして、インプットをたくさんする。
- 高学年の外国語教材は年間70時間用なので、移行期の50単位時間では、中学年の外国語活動の内容もふまえつつ、必要最低限の内容を取り扱わなくてはならない。特に新5年生には配慮が必要である。
- 単元計画から、必要に応じて活動を抜いたり、変えたりする「引き出し方式」で授業を設計するとよい。
- 変わらないのは、言葉というのは相手があってこそそのものであり、外国語活動、外国語科における「学び」とは「コミュニケーションを図ること」であるということ。



台風により中止となった夏の講座の代替講座を快く引き受けていただきました。



<受講者のアンケートより>

- 年間計画を見通して、授業に向けた準備をしていかななくてはいけないと感じました。特に移行期の5年生は難しいと感じました。
- 学年の系統性をふまえ、繰り返し英語にふれる活動を進めていくことが大切だと思いました。今日、教えていただいたゲーム等、少しずつ取り入れて、子どもたちが楽しみながら活動できるように考えていきたいと思えます。
- 「英語嫌い」を出さないように、どのような活動、授業を行い、さらに定着させていくか。5、6年生で評価を行う必要が出てくるので、しっかり計画的にやっていく必要が出てくる。担任の意識を変えていく必要がある。どのように評価していくかも考えていく必要がある。
- 小学校で行われていく外国語活動と教科としての小学校外国語の授業内容をしっかりと理解し、中学校の英語教員としてやるべきことは何かを考え、小中で連携できることを考えていく必要があると思えます。



すぐに使えるアクティビティのご紹介



重ね重ね Sorry!

リーダーの手の上にメンバーの手を重ねる。
Apples are red. The sky is blue...
教師の話す英語がまちがっていたら、リーダーは
さっと手を抜き、上にあるメンバーの手を叩く。

学級始めに日本語で
やっておくとよい。



ペアで手を叩きながらリズムに合わせて、色からイメージするものを順に答える。
(Clap, Clap) A: Red
(Clap, Clap) B: りんご
(Clap, Clap) B: Blue
(Clap, Clap) A: 空



「ビビディバビデブー」

- ① リーダーは、誰かに向かって歩いて行きます。
- ② Youと言われた人は、I'm ○○○. と自分の名前を言います。
- ③ Iと言われた人は、You are △△△△. とリーダーの名前を言います。
- ④ Heと言われた人は、He is □□□□. と指名された隣の男性の名前を言います。
- ⑤ Sheと言われた人は、She is □□□□. と指名された隣の女性の名前を言います。
- ⑥ 名前を言う前に「ビビディバビデブー」と言われたら、リーダーの勝利です。
- ⑦ 負けた人は、リーダーと役割を交代します。

PA講座 2017.3.30 エル大阪 たこやきさん改



「伝染るんです」

- ① 4～5人組になります。最初にはじめる人（リーダー）を決めます。
 - ② リーダーは、絵カードの中から1つ選びジェスチャーをします。
 - ③ 2番目の人はリーダーの動作を想像し英語で聞きます。（+）
Can you play badminton?
 - ④ リーダーは、自分ができるかできないか、答えます。
Yes, I can. / No, I can't.
 - ⑤ 2番目の人は、Yes なら同じ動作を、No なら動作を変えます。
 - ⑥ 以降、時計回りに続けて聞いていきます。
- * 動作と全く違うことを英語で言い、次の人がその動作をするのも面白い。



インプロ研究会 2017.5.4 「なにやってるの？」改

■ 聞いてカルタ（音→文字）

- ① 絵カードを机の上に広げる。
- ② 教師が言った英語をよく聞いて、Go!の合図で取る。
T: play soccer? Go!
- ③ カードを取って英語で答えたらトークンをもらえる。
S: I can play soccer. / I can't play soccer.
- ④ カードの種類を追加して、次第に文字にフォーカスさせる。
- ⑤ 言い方を教えてあげたらトークンをもらえる。相手にカードをゆずってあげたらトークンをもらえる。など、クラスルールを考えさせるのもよい。



■ 言ってカルタ（文字→音）

- ① 絵カードをよく切って、4人にわける。
- ② 自分のカードを裏を向けてよく切って、手元に用意する。（カードを見てはいけません）
- ③ 順番を決め、一人ずつ、自分のカードを表向きに出してI can ~. または I can't ~. と英語で言う。
- ④ 4人のうち、カードに書いてある一番大きな数のカードを出した人が、全てのカードをもらう。
- ⑤ もらった人から再開し、ゲームを続ける。



絵カードの右上に点数
が書いてありました。

*トークン=代用貨幣



情報モラル講座

「児童・生徒のSNS利用実態と明日からできる情報モラル教育」

3月1日（木）に開催した「情報モラル研修講座」には、各校の情報教育推進委員の先生方を中心にご参加いただきました。

前半の実践報告では、神社小学校の森下教諭と、明倫小学校の山本養護教諭にそれぞれ各校の取組を発表していただきました。

後半は、豊田^{みちたか} 充崇さん(和歌山大学教育学部教職大学院教授)にご講演いただきました。学校や担任が子どもたちの実態に合わせた情報モラル教育をすすめていくための方法や教材等について教えていただきました。



「情報教育の取り組み」

森下雅人教諭

発達段階に応じて、全学年で情報モラル教育を実践している。パソコン、スマホ等の活用経験がない児童にも、交換日記や手紙によるやりとりなどのトラブルや約束について考えたり、話し合ったりすることで、ネットを介したコミュニケーションの基盤となるモラルを学ばせるようにした。

また、情報モラル講演を児童と保護者に向けて実施している。低学年と高学年に分けて話を聞いたり、児童の話を保護者も一緒に聞いたり、対象やもち方を変えながら、啓発を続けている。

「情報モラル実践発表

～前任校での生徒保健委員会活動～

山本 祐養護教諭

保健室に来室する生徒との関わりから、ネット依存による睡眠不足や視力低下といった実態が見えてきた。そこで、生徒保健委員会活動の一環として、文化祭で劇の発表をして、ネット依存による悪影響や、なりすましの危険、LINEトラブルについて訴えた。

「自分には関係ない」ではなく、身近な問題として捉えられるように、教職員がアンテナを高く、連携しながら、繰り返し指導することが必要である。

<豊田先生のお話より>

- 学校現場での情報教育は、各種ネットトラブルの予防・対処を主軸に、これからの情報社会を切り拓く力の育成することが目的である。
- 道徳科では、ネットワークコミュニケーションにおいて、思いやりや礼儀に配慮することを指導の重点として捉えておく。
- 短時間で場面把握ができ、本音を引き出しやすく、他者の意見を受け入れやすい教材を有効活用しながら、考え議論する道徳を目指したい。
- 情報社会の中で、子どもたちは知らないうちに悪影響を受けることがあるが、それを教育することができるのが学校である。

<受講者アンケートより>

- 森下教諭の報告では、学校全体、保護者への啓発の大切さや取組方法を知ることができ参考になった。山本養護教諭の報告では、子どもたちの心身への影響についての話もあり、違う視点から取組をしていく必要性を感じた。
- 情報モラル教育を安全教育として捉えることで、あらゆる場面で継続的かつ児童の実態に応じた指導が容易になる。
- 短い時間であっても、回数をこなして、道徳心を涵養していくことが大切である。
- 紹介していただいた教材を、ぜひ活用していきたいと思う。
- このような機会をこれからも設けてほしい。

■明日から即実践できる！！情報モラル指導用教材（豊田研究室提供）

<http://www.wakayama-u.ac.jp/~toyoda/mr.l>

※教育現場で聞き取ったネットトラブルの事例をもとにストーリーを漫画化。全教材、編集・加工・改変を自由に行なっていただけます。

⇒詳しくは教育研究所情報担当まで



平成29年度「不登校対策ハーモニーハート総合推進事業」研究報告

2月5日（月）、「不登校対策ハーモニーハート総合推進事業の研究報告会」を開催しました。研究委託を受けていただいた倉田山中学校と厚生中学校の2校を代表して、倉田山中学校の松村まち子校長先生に、集団づくり、授業づくりや中1ギャップ解消に向けた小中連携の取組について報告していただきました。下記に両校の実践報告から抜粋内容を掲載させていただきます。



倉田山中学校

「小中連携をとらした、

不登校未然防止のための魅力ある学校づくりについて」

倉田山中学校は、平成29、30年度、国立教育政策研究所の「魅力ある学校づくり調査研究事業」の委嘱も受けています。新規の不登校を抑止し、子どもたちが「学校が楽しい」「授業がわかる」と感じる魅力ある学校づくりのために、校区小中学校が連携して取り組みました。

小中学校の児童生徒の実態を話し合い、目指す児童生徒像を「互いに認め合い、ともに支え励まし、自ら考え行動する児童生徒」とし、その実現のため「わかる授業づくり」「心の絆づくり」「生き方の学び場づくり」の3つを共通の取組の柱としました。

9年間の育ちや小中のつなぎを意識して、各校でさまざまな取組を行い、交流をしています。小中学校の児童生徒をつなぐことで、子どもにも小中の連続性が意識されたほか、教員同士が互いの学校を訪問することで、互いの校種への理解が深まり、子どもの指導に生かされました。

厚生中学校

「中1ギャップ解消に向けた小小・小中連携等の研究

～ 小中学校間の交流を通して ～」

小学生の頃には生徒指導面で特に問題のなかった児童が、中学校に進学して不登校になったり、悩みを抱えたりするなど中1ギャップと思われる現状が見られます。その克服を目指した教育を進めるためには、特に小中学校間の連携の在り方を考える必要があります。また、児童生徒間の交流や教師間の交流、連携の見直しや工夫等を行うことにより、児童生徒が感じる不安・ストレスが減少し、集団の中で生き生きとした活動を展開することができるようになると思います。

小中合同の研修会を通して、共通した教育課題について研修を深めながら、両校種の教師間の距離が縮まり、児童生徒の情報交換がしやすくなりました。小学生が中学校の行事に参加することで、中学生の姿を身近に見ることができ、中学校生活に対する不安感を和らげ、期待感を高めることにつながりました。また2つの小学校6年生の交流を行うことにより、中学校入学時に再会できる期待感や喜びを感じさせることができると考えます。



後半は、「伊勢市いじめ対策等生徒推進研修会」として会を進め、国立教育政策研究所の中野^{きよし} 澄 総括研究官に『不登校・いじめを生まない学校づくり』と題してご講演いただきました。

ひとりでも悩まないで
いじめなど悩みの相談は
スマイルいせ (小中学生対象)
22-7867
伊勢市青少年相談センター
22-7894
いじめ電話相談
059-226-3779
24時間子供SOSダイヤル
0120-0-78310

電話相談カードをいただきました！

今年も「伊勢ロータリークラブ」様から、子どもたちが困ったときや悩みのあるとき、一人で苦しまずに相談できるようにと「電話相談カード」を贈呈していただきました。平成30年度中学校新入学生徒に配付予定です。

